

令和7年度



しもよねだ

第12号

令和8年2月27日(金)

締めくくりに向けて

校長 安藤 由美子

春一番のたよりが聞こえてきました。令和7年度も残すところ1ヶ月となり、学校は締めくくりの時期を迎えています。

先日、来年度の委員長を決める選挙が行われました。本校には6つの委員会があり、5年生以上が活動を行っています。前期、後期の委員長、計12名を選ぶ選挙に立候補したのはなんと22名！自分から手を挙げるのは勇気があることですが、果敢にチャレンジした5年生のやる気が何よりすばらしいと思いました。

よい緊張感に包まれた演説会では、公約と共に、これまで委員長を務めた6年生の姿に憧れたと話す児童が多くいました。6年生が姿で示してくれた宝を引き継ぐという決意を感じました。



宝を受け継ぐ決意 立候補者の演説

全校の児童達は、進級を前に、各学級で宝物発表の準備を行っています。発表というと、ステージで画像や映像を見せながら説明する「集会方式」を思い浮かべがちですが、今年は「参観方式」にしました。自分達が一番誇れる姿を、実際に現場で見せるという方法です。6年生は5年生に、5年生は4年生に……という具合に、1つ下の学年に見てもらいます。1年生が宝物を見てもらうのは、来年入学してくる下米田保育園の園児達です。

見せる宝物は、学級ごとに話し合っている最中です。元気な挨拶、休み時間と授業の切り替えの早さ、集中する授業、黙って手を動かす掃除、掃除の質を高めるプレゼン提案、継続してきた丁寧な歯磨きなど、いろいろな宝物候補が出ているとのうわさです。

実際の活動を目の前で見てもらうため、ごまかしはききません。見せる側も見る側も全員が緊張感をもって臨む発表の場となるでしょう。百聞は一見にしかずと言いますが、1年後に自分達がめざすべき姿をしっかりと感じ、目に焼き付けてほしいと思います。